

法人の取り組みとして北欧研修の機会がある。コロナ禍の影響もあり令和5年度、4年ぶりに再開した。デンマーク在住の千葉忠夫さんとのご縁から、岩手県の社会福祉法人つくし会、熊谷茂理事長をご紹介いただき、お二人のコーディネートによる北欧研修に数多くの職員の参加が実現した。福祉国家デンマークを中心に、3カ国を巡る視察研修は、短期間でも国の雰囲気文化の違いなどを肌で感じられた。50年以上デンマークに在住し、「日本を良くしたい」という想いでデンマークから先駆的に発信し続け、多くの日本人にデ



「体験する」という学び

苑長 池田めぐみ

ンマークの福祉をレクチャーする千葉さんのフル同行ツアー。教科書にはない情報を得られるのがこのツアーの醍醐味でもある。「何年も日本人を研修にアテンドしたが、日本は一向に変わらない！」と千葉さんは激を飛ばす。北欧の福祉を真似することで、その歴史、エビデンスがあるのではなく、そこには今に至るそれことを理解した中で、互いの良さを感じながら日本としての福祉、生活への課題に取り組んでいくことだと思う。逆に、日本の福祉や介護の良さを改めて発見することにも結びつく。

個人的には、限られた時間だが、コロナ禍の閉塞的な生活から海外という環境に一転し、氷が溶けるように頭と身体がほどけた感覚を得た。真の民主



義、自己決定、パーソンセンタードケア、ノーマライゼーションが、そこに日常として感じられ、福祉という言葉で括るのではなく、生活すべてがそのもの。文化や歴史も含めて肌で感じ、何を想うか。座学では得られない体験型研修の価値がここにある。海外のみならず、こうした記憶に残る経験を蓄積し、身近なことの変革につなげていきたい。

文集
なぎさ
第80号
なぎさ和楽苑
令和6年9月5日発行

令和5年5月28日～6月6日

北欧研修を終えて



幸福度上位のデンマークは、老若男女、障害の有無に関わらず、地域の中で自分らしく生活できる環境が、国民の税金と連帯により手厚く支えられていた。困っている人に手を差し伸べる思いやりの精神や、自己決定と自己責任で社会と向き合う自律する国民性は、幼い頃から遊びや学びを通じて育まれてゆく。



保育園のおやつは、食物繊維豊富な黒パン、魚のすり身揚げや胡瓜、キウイ

の中から好きな物を選択し、ランチは多数決で譲り合う曜日があり、足りない物は分け合うなど、食一つとっても人間の基礎を成す教えがあった。デイサービスのティータイムも好きな物を職員も共に楽しみ、交流しながら寄り添うことがケアの一環として位置付けていた。

デンマークではヒュッゲという、人との交流や、自然の癒しなどから、日々小さな幸せを紡ぐ文化が根付き、ワークライフバランスが大切に考えられていた。人は平等公平、障害者も高齢者も生きがいを持ち、地域の人とできるだけ近い暮らしがデンマークにはあった。世界は広い。人としても学び多き研修に感謝。多くが体感し、ご利用者に連帯して寄り添えれば心強い。
(管理栄養士 清水 利美)





令和5年度 長寿を祝う集い

令和5年9月17日(日)、なぎさ和楽苑最大の慶事である敬老行事「長寿を祝う集い」を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小し祝賀の式典を執り行いました。式典には齊藤猛江戸川区長をはじめ、家族会より会長、副会長、幹事の皆様、当苑の第三者委員の皆様にもご出席いただきました。



式典後は、これまで好評だったのど自慢大会を行ったり、新田太鼓様の太鼓や踊り、ゆきな会様による盆踊りで祝賀の雰囲気盛り上げていただきました。体と心に響き渡る太鼓の演奏と華麗な踊りを間近で鑑賞でき、ご入居者とご家族の

皆様はもちろん、職員も楽しいひと時を過ごすことができました。また、ボランティアの皆様からは、ご入居者の健康を願って作成いただいたお守りをご寄贈いただきました。車椅子や杖につけたり、居室に飾ったりなど思い思いに使われています。

この会を開催するにあたり、多くの方々にご協力いただき、一体となってお祝いすることができたことを心より感謝申し上げます。
(生活相談員 大栗朋也)



よりあい処プロジェクト vol.2

令和5年度よりパワーアップして帰ってきた「よりあい処」。毎週水・金曜の開催を基本としていますが、週2~4回程度に開催日を増やし、プログラムの幅も広がり、さらにパワーアップしています。隔週で行っているピアノ演奏を楽しむ時間と、「ブンネ」という楽器を実際に「えんそう」体験できるそれぞれのプログラムには、常連のご入居者もいらしゃれば、その時の気分で参加して下さる方も開始当初より増えており、よりあい処がご入居者に浸透していると実感しております。最近では「推しの会」という好きなアイドルやキャラクターなどをピックアップして楽しむプログラムも開催しております。

そして、ボランティアの方々との関わりを増やすこともでき、ボランティア担当とよりあい処担当で日程を調整し、オンラインでのコンサートや交流する場を毎月設けることができています。また、ボランティアの方には、ご入居者をよりあい処へお誘いいただい



ります。参加されたご入居者からは、「今日は初めてボランティアさんとお話ができて楽しかったよ」「やることができて本当にいつも助かっているよ」と、職員に温かい言葉を掛けていただいております。

ご入居者、ボランティア、職員の関わりを大切にできる場の一つとして、引き続きよりあい処を活性化できればと考えております。
(生活相談員 梅原 淳一)

TOPICS

令和5年6月28日 管理・経営層職員研修



当法人では顧問弁護士(谷靖介弁護士)による「管理・経営層職員研修会」を毎年開催しております。令和5年度のテーマは「現実起きた介護施設内の労務問題やその対処方法」「事故対応などの際の現場管理職と弁護士の活動範囲」でした。江戸川地区、浦安地区、千代田地区と60名の幹部職員が研修を受講しました。今回学んだことを生かし、信頼されるサービスを目指してまいります。
(介護長 佐藤 雄一郎)

令和5年9月14日

自衛消防訓練審査会

毎年、地域の企業や福祉施設が集まり実施されている自衛消防訓練審査会へなぎさ和楽苑代表として参加させていただきました。当苑ではこの審査会に、毎年異なる職員が参加しています。実際の災害時に迅速に対応できるよう、職員一人ひとりの防災意識を高めるための取り組みになっています。

審査会では、消防士の方に消火器や消火栓の使い方を教えていただきました。また、避難誘導やアナウンスの仕方を習い、「ゆっくり丁寧に伝わりやすいように」を大切に、火災現場を想定し訓練しました。



自衛消防訓練審査会にて見事、優良賞を受賞！暑い中、一生懸命練習に取り組んだ並河係長、小牧介護員、金子介護員に拍手！

このような機会に参加できたことで、災害時に自分がどのように動けば、ご利用者様や自分自身を守っていけるのか、考える良い機会になりました。

防災担当/並河 健司
特 養/金子 由依
短期入所/小牧 真希



盂蘭盆会法要

令和5年7月15日

当苑が足立区から現在の地に移転した際、ご縁があつて共に生活された無縁物故者の御霊を大切にしたいという、なぎさ和楽苑創設者平方顧問の想いから、昭和58年に東葛西の真蔵院に霊廟を建立しました。以降毎年お墓参りと盂蘭盆会法要を営み、物故者への丁寧なる供養をしております。

近年はコロナ禍の影響もあったため、規模を縮小しての法要となっておりますが、令和5年度は新型コロナウイルスが5類に引き下げられたため、4年ぶりにご遺族の方も参列しての法要を実施しました。

ご参列されたご遺族の皆様とともに物故者を偲ぶことができました。神聖な心のよりどころとしてこれからも互いの心に刻んでまいります。

(介護長 佐藤 雄一郎)



TOPICS

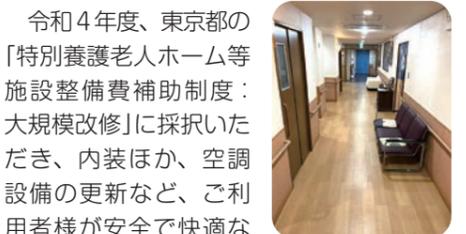
苑内のリニューアル！ 大規模修繕工事を行いました

令和4年度、東京都の「特別養護老人ホーム等施設整備費補助制度：大規模改修」に採択いただき、内装ほか、空調設備の更新など、ご利用者様が安全で快適な生活が送れるよう大規模改修工事を行いました。

設備を含め、劣化が認められていた各所に修理や修繕を施しました。同時にフローリングの色も一新し、令和5年度更新したLED照明による光量アップも相まって、非常に明るい環境に生まれ変わりました。

最新こそが最良！10年後、20年後もそう思えるよう大切に！

(主任 大谷 亘)



地域のお祭りに参加しました

10月8日(日)、約4年ぶりとなる「第46回 江戸川区区民まつり」に参加。ボランティア団体「なぎさグループ」様の主体にて、東京栄和会法人全体の各部署より職員や実習生が集まり「なぎさ和楽苑グループ」として総勢49名にて模擬店を出店いたしました。

江戸川区区民まつりには、なぎさ和楽苑が設立された当初から、なぎさグループ様のお手伝いとして参加。日頃よりボランティア活動で温かいご支援をいただいているグループの皆様への感謝として、私たち職員がボランティアの立場で参加しつつ、親睦を深める機会として約30年以上にわたる歴史があります。

今回の模擬店では綿あめやポップコーン等、例年のラインナップに加え、初めての挑戦となった磯辺焼きも出店。そして、飲み物の販売には毎年、柳リカー様にもご協力い



ただいております。当日は天候にも恵まれて会場内はたくさんの方々の地域の方々と賑わい、久しぶりのお祭りの開催に模擬店も大盛況でした。

そして、10月15日(日)にはこちらも4年ぶりとなる「第48回 葛西まつり」へも参加いたしました。残念なことに雨模様ではありましたが、久しぶりのお祭りとして会場は賑わい、多くの地域の皆様が来場されておりました。なぎさ和楽苑のブースでは熟年相談室にまつわるクイズや、介護相談コーナーを出店。その他に若年性認知症支援事業「フリーサロンあしたば」のメンバーの皆様が「あしたばアート」で作成した装飾品を展示するコーナーも設置。当苑の事業を知っていただく機会を設けました。

本年度は地域活動が活性化したことで、コロナ禍で閉ざされていた地域との結びつきを再開できた重要な年となりました。

TOPICS

関東第一高等学校 定期演奏会



関東第一高等学校様とは、同校野球部が甲子園に初めて出場された昭和60年より交流が始まりました。今日に至るまで多くの生徒の皆様がボランティア活動やイベントにご協力いただき、温かいご支援を賜っております。

そのご縁もあって毎年11月に行われる「関東第一高等学校 ウインドオーケストラ定期演奏会」や秋口に開催される「ふれあいコンサート」にご招待いただいております。今回で53回目となる定期演奏会は、日本管楽合奏コンテスト7年連続全国大会出場を記念した演目のほかに、生徒たちによる毎年恒例のオリジナル演奏喜劇と内容が盛りだくさん。数々のコンクールで金賞を獲得してきた生徒たちが奏でるハーモニーはとても素晴らしく、迫力ある演奏は圧巻。当日観覧したご利用者様も大変喜ばれ「毎年演奏を聴けるのが楽しみです」との感想をいただきました。

西葛西駅前 赤い羽根共同募金活動

10月2日(月)、4年ぶりに街頭で赤い羽根共同募金活動を実施することができました。今回は当苑内にある軽費老人ホーム「JOYなぎさ」にお住いの皆様の参加も叶い、西葛西駅南口と北口にわかれて募金活動を行いました。

参加した職員は私を含め、ほとんどの人が初めての経験でした。最初はごちなさもありましたが次第に熱も入り、力を込めた呼びかけのいかもあって、たくさんの方々の地域の皆様から温かいご支援をいただきました。朝の通勤時間のとても忙しい時間帯にもかかわらず、本当にありがとうございました。

今回の参加を通し、赤い羽根共同募金の活動の趣旨を詳しく理解できたこと、それを地域へ発信、少しでも多くの方に活動の意味を知っていただく大切さを学べた貴重な機会でありました。



お弁当配布形式で なぎさ☆キッチン再開

当苑で2018年から取り組みが始まった地域食堂「なぎさ☆キッチン」がコロナウイルス蔓延に伴い中止せざるを得ない事態となっており、約4年の月日が経ちました。

当苑としても、何か別の形で再開ができないかと模索し始めた矢先、長きにわたりご協力くださっているボランティア団体「たんぼぼ」代表 清水幸子様からも再開したいという心強いお言葉をいただき、活動を再始動する運びとなりました。

しかし、以前のような来苑型での開催は難しいため、何ができるのかを慎重に協議した結果「お弁当配布形式」として再スタートを切ることとなりました。

今まで培ってきた「なぎさ☆キッチン」の意図をいかに踏襲し活動へ反映させるか、地域への情報周知をどのように行うか等々、新しい試みでもあり試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ活動を一つの形に作り上げていきました。

令和5年の6月に行われた職員を対象としたデモンストラレーションを皮切りに1回目の開催、7月から年度末にかけて月に一度のペースで計9回にわたり開催。毎回アンケートも実施し、地域の皆様が求めるニーズを調査。ボラン

夏のかき氷 イベントを終えて

職員自治会の活動は、みんなが参加しやすい形で、笑顔で、親睦を深められるように、季節の行事やイベントを企画・実施しています。

とても暑かった昨年の夏は、かき氷のイベントを3回に分けて実施しました。200杯のかき氷を提供でき、多くの職員に振る舞うことができました。シロップには濃厚抹茶、苺ソース、トッピングには苺や白玉あんこなどを準備し、色とりどりのかき氷を用意しました。さまざまなフレーバーが用意され、一口食べるたびに「おいしい!!」と笑顔が見られ、会話も弾み、参加した職員たちは、ほんの一時楽しむことができたのではないかと思います。

夏は暑さで疲労が蓄積しやすく、体調を崩しやすい時期でもあります。今回のかき氷イベントが涼しさとともに、職員同士のコミュニケーションと心地よいリラックスをもたらすことができたと思っています。今後もこのようなイベントが、忙しい日常業務の中で息抜きになり、仕事へのモチベーション向上に繋がることを期待しています。

(職員自治会長 高橋 栄二)



EVENT REPORT



ティアとの打ち合わせも綿密に行い次回の展望として活動に加えていきました。

また、お弁当を配るだけではなく地域の皆様との繋がりを大切にするため、交流を図る機会を設けたことで、多くの方々にご利用いただけるようになりました。

そして、たんぼぼ様をはじめ、他の団体である「なぎさグループ」「ワッシー」の皆様にもご協力いただき、ボランティアのネットワークも広がり始めました。これからも地域に向けた幅広い公益的な取り組みとして、更なる進展を目指し進んでまいりたいと思います。

久しぶりの再会 ボランティア学習会

令和5年6月25日(日)に約4年ぶりとなるボランティア学習会を開催いたしました。

当日はボランティア団体の皆様や、個人で活動されている方をはじめ、多くの皆様にお集まりいただき、久しぶりの再会に会場も賑わい、私たち職員一同大変嬉しく思いました。学習会の中では、受け入れが叶わなかったこの数年間の苑内における様子をお伝えすると共に、今年からの感染症対策規制緩和に伴う中で再構築した受け入れ態勢のご案内をいたしました。

そして、現状を踏まえこれから何に取り組んでいくのか、ボランティアの皆様と意見を交わす場として、大変有意義な時間を共有することができました。

今回お寄せいただいた皆様の希望や要望の実現に向けて、真摯に取り組んでいくことと、引き続き地域の皆様がいっしょに足を運んでいただけるような風通しの良い施設を目指してまいりたいと存じます。





令和5年10月27日

新田保育園様との交流

新田保育園の園児の皆様が素敵な踊りを披露してくださいました。

この日のためにたくさんの練習を積んで登場。和太鼓のリズムに合わせた切れの良い動きと、一生懸命に演舞する姿がとても勇ましく、元気いっぱいな姿にご利用者様からたくさんの声援が上がっていました。

踊りの後には園児たちとお話をする場面もあり、かわいらしい質問にご利用者様から笑顔がこぼれておりました。「孫を見ているようで本当にかわいいね」など、皆様大変喜ばれており、多世代交流の大切さを感じることができた瞬間でした。

楽しい時間を共有させていただき誠にありがとうございました。
(地域連携推進係 中村 達也)

ご入居者様より



田中 洋子様

ガーデニングが趣味で、春と秋にも楽しめるようにと、春と秋に咲く花の苗を買い、全部で100種類の花を庭に植えて育てていました。リビングからその風景を眺めながら食事をしたり、コーヒーを飲んだりする時間が、私にとって一番幸せなひとときでした。

花が咲いたら絵手紙にして、友人に差し上げたり、一年に一度、展覧会に出展したりしていました。

文集に寄せて

職員より



20代も終わるころ、いろいろと考えることがあり、なぎさ音楽苑でボランティアをさせていたいただきました。「とにかく今まで経験したことがないことをしよう。いろいろな人と接してみたい、人の気持ちの分かる人間になりたい」と始めたボランティアで、出会った職員の方々が皆、明るくて優しく驚いた記憶があります。結局、このボランティアがきっかけで声を掛けていただき、なぎさ音楽苑の訪問介護でヘルパーとして、また、訪問入浴業務なども行いなが

ら3年間、働かせていただきました。「もっと介護技術を身につけたい」と思い、特養へ異動。あれから20年、特養に移ってからも今までいろいろな出会いがあり、経験をさせていただきました。いつからか同じ環境に甘えている自分が当たり前となっており、行き詰まっている自分がいました。やっぱり私は、あれやこれやとできる人間ではなく、愚直にひとつのことを考えていることが性に合っていると感じています。こんな私を優しく受け入れてくださった先輩職員の方々、本当にありがとうございます。なぎさ音楽苑に入ったころのチャレンジ精神を思い出して、これからも自分の道を進んでいきたいと思っています。

特養介護係長 相澤 学郎



令和5年11月12日

「介護の日」イベントを開催しました

平成21年に始まったなぎさ音楽苑介護の日イベントは、今回で15回目を迎えました。今年のテーマは、UAさんの楽曲から一節をお借りして、「～会いにいこう! 踏み出す一歩が今日を変えていく～」としました。

当日はあいにくの雨でしたが、60名を超えるボランティアさんや、日頃お世話になっている業者の方の参加・協力の下、参加された皆さんでつくりあげる、笑顔あふれるイベントとなりました。



以前は、介護について知っていただいたり、一緒に考えていただいたりするようなプログラムを多数企画していましたが、今回は『介護者



技術教室(移乗・移動の介護のコツ)、『臨床美術 あしたばアート ワークショップ』の2つの参加型プログラムを実施しました。参加した皆さんからは、「大変勉強になった」「久々にクレヨンを使った。素敵な作品ができて楽しかった」との感想をいただきました。

この日は新型コロナウイルスを経て、「新たな一歩を踏み出した一日」となりました。

(居宅サービス課長 遠藤 信裕)

「地域で支えあう若年性認知症 PART19」 ～脳科学で理解する認知症の人の世界～

講演

「脳科学から見た認知症～その人らしさは失われない～」 講師 脳科学者 恩蔵 絢子氏

11月26日に脳科学者 恩蔵絢子先生にお越しいただき、タワーホール船堀で「若年性認知症セミナー」を開催いたしました。恩蔵先生は認知症と診断された実母を長年介護されてきました。脳科学者として、「認知症は、現在のことが脳に定着しにくく、記憶が整理しにくいので、うまく判断ができなくなる病気である」と説明されました。また、「認知症とはいえ全ての物事が一度にできなくなるわけではないため、できることは一緒に行うことが大切」とも話されました。例えば、恩蔵先生のお母様は料理が大好きでしたが、認知症と診断された後、段々と料理をされなくなりました。料理は工程が多く、途中で何をしているのかわからなくなってしまうのですが、今何をしているのか声を掛けると続けられるのではないかと考え、一緒に台所に立つようにすると料理をしてもらえることが増えたと話されました。



「できないこと」を見るのではなく、「できること」に着目し「その人らしさ」は残っていると思うことが大切だと教えていただきました。

(居宅サービス課長 遠藤 信裕)

TOPICS

アレンジメント委員会



私たちアレンジメント委員会は女性メンバーを中心に、働きやすい環境づくりのために活動しております。令和5年度は苑内に花を飾るフラワーアレンジメント活動や、地下職員トイレにダスターを設置するなどの取り組みをいたしました。ダスターを設置してからは洗面台が濡れていることも減り、気持ちよく使えるようになってきました。

(特養リーダー 中村 成美)

全国社会福祉協議会
アジア社会福祉従事者研修修了生

フォローアップ研修受け入れ



10月4日～7日の4日間、台湾からの研修生、廖干吟(リャオ・ユーイン)さんが来苑しました。

今回のフォローアップ研修では、「包括的な支援体制や地域支援について学ぶ」をテーマにカリキュラムを構成。難しい内容でありましたが、母国での福祉貢献活動に役立てたいと、とても熱心に取り組まれておりました。

私たちもリャオさんとの交流からたくさんのごことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。今後のご活躍をお祈りしています。(地域連携推進係 中村 達也)

パラボールを観戦しました!



10月25日、江戸川区球場で行われた「第3回パラボールフェスティバル」を軽費老人ホームのご入居者・あしたご利用者の皆様と観戦してまいりました。

「パラボール」とは、パラリンピックの「パラ」と「ティーボール」を合わせた造語で、ティー台とスポンジボールで行う野球に似た新しいパラスポーツです。江戸川区近隣の障がい者施設や、中学校の特別支援学級などの団体が参加し、本格的な球場で行われるこのパラボールの熱戦を間近に観戦することができ、ご入居者・ご利用者も熱いひと時を満喫しました。

(都市型軽費老人ホーム 係長 並河 健司)

文集なぎさ第80号

(令和6年9月5日発行)

社会福祉法人 東京栄和会 **なぎさ和楽苑**

発行者 苑長 池田めぐみ

編集 「なぎさ」文集委員
(生馬・梅原・中村)

〒134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1

info@tokyoeiwakai.or.jp

https://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 ㈱明光企画

■御寄贈の部
中川インテリア(株) 代表取締役社長
中川晶博様、(株)S&A 窪田龍一様、日本
ケログ合同会社様、(株)ステージ様、乙
部恒様、田中産業(株) 代表取締役 田中
康生様、西華産業(株)様、原眞治様、橋
高弘子様、一般社団法人食品ロス・リポー
ンセンター様、中山慶子様、東京都福祉
保健局生活福祉部計画課災害支援様、森
幸男様、相澤優江様、(株)サポート代
表取締役 中島和紀様、アイエムエフ(株)
代表取締役 大塚博巳様、東京都公衆浴
場生活衛生同業組合江戸川支部長 中山
光雄様、足立静子様、清川のり子様、東
京善意銀行様、田部久爾子様、資生堂ジャ

🌸
施設運営御賛助御芳名
(2022年9月～2023年3月)

■御寄付の部
パン(株)プレミアムマーケティング本部
越本貴志様、栗原様、山本綾子様、梅
村政人様、嶋田美保様、三宅高明様、N
TTCコムエンジニアリング(株) 営業推進
部様、三井住友海上火災保険(株)様、なぎ
さ和楽苑家族会様、(株)福祉会計サービ
スセンター様、(株)マルヤナギ小倉屋様
青谷懿様、(株)永山 石塚様、大波修
様、(株)サステナブル・プランニングマー
ケティング部門 渋谷様、(株)SAMPLE
COMPANY 代表取締役 木島正明様、関
口静代様、林育子様、阿久戸久子様

なぎさ 和楽苑 家族会様、佐々木光春様、
鈴木京子様、木戸修子様
*心温まるご支援に感謝いたします。
尚、苑行事に伴うお祝いは割愛させていた
だいております。

公式SNS紹介

個人情報保護に配慮しつつ、
当苑の取り組みをタイムリー
かつ、わかりやすく発信してま
いります! ぜひご覧ください!

Instagram

公式アカウント:
@nagisawarakuen



YouTube
チャンネル



■資格取得者(敬称略)
社会福祉士 田中千帆
介護福祉士 伊藤ひとみ・ダオティトゥ
イ・竹田后重・田中千帆・松村絵美
介護支援専門員 大場美雪・川元ひと
み・棚原俊勝
終末期ケア専門士 大城潤治
皆さん、おめでとうございます。

編集後記

新型コロナウイルス5類への移行による感染症対策規制緩和に伴い、地域ではさまざまな催し物が再開し始め、通常の生活に戻りつつある兆しが見えてきたように感じております。

当苑におきましても、中止されていたイベントや、以前から取り組まれてきた活動を少しずつ再開することが叶い、再び皆様とお会いできたことを大変うれしく思っております。まだ全面的な開放には至らない段階ではありますが、感染症対策には十分に配慮した形で、何ができるのかを慎重に捉え、引き続き地域の皆様が安全に心地良くお越しいただけるような環境作りを努めてまいりたいと存じます。

今後多く地域の皆様とお会いできる日を心待ちにしています。(中村 達也)

